

- 昔、大きな梅檀の木があったことからこの橋の名がつけられました。江戸時代の初期、中之島にあった蔵屋敷に行き来するために架けられたものです。明治18年、淀川大洪水が発生し、この橋をはじめ、中之島に架かる多くの橋が流されました。梅檀木橋が再び姿を見せたのは大正3年のことで、以後昭和10年に架けかえられ、中之島公園とともに、広く市民に親しまれてきました。



72 三好達治詩碑

北区中ノ島1丁目1(中央公会堂前)

- 昭和57年3月大阪市により建てられています。三好達治は明治33年(1900)、大阪市西区横堀町に生まれます。紹介されている詩は次のとおりです。
- 「乳母車
淡くかなしきものものふるなり 紫陽花いろのものものふるなり
はてしなき並樹のかげを そうそうと風のふくなり
時はたそがれ 母よ 私の乳母車を押せ
泣きぬれる夕日にむかって 鱗々と私の乳母車を押せ
青き総ある天鷲絨の帽子を つめたき額にかむらせよ
旅いそぐ鳥の列にも 季節は空を渡るなり
淡くかなしきものものふる 紫陽花いろのものものふる道
母よ 私は知っている この道は遠くはてしない道」
- この詩は、三好達治25歳の時、大正15年(1926)に発表されたもので、透明でナイーブな情感が評判になりました。梶井基次郎、中谷孝雄らと「青空」を発刊し活躍します。



三好達治

73 豊国神社跡および豊太閤像跡 北区西天満2-1(中央公会堂付近)

- 豊臣秀吉、秀頼、秀長を祀った神社。豊臣氏滅亡後、徳川幕府は、社殿の修理一切を認めなかったため衰退していきました。明治時代に再建が認められ、京都に興し、別社として明治12年(1879)大阪中之島、現在の中央公会堂の地に建てられました。神社境内には、豊臣秀吉の銅像が建っていましたが、太平洋戦争の折、供出のため姿を消し、復元されないまま今日に至ります。神社は、昭和36年に大阪城内にある現在の地に移っています。



大阪裁判所

豊国神社



当時の豊臣秀吉像

74 大阪市中央公会堂

北区中ノ島1丁目1

- ▶ 大正7年(1918)秋に建てられています。株仲間買人 岩本栄之助(1877-1916)が大阪市に私財100万円を寄付し、建てられたものです。当時の100万円は、今の貨幣価値で30億円を超えるそうです。岩本栄之助は、30歳で相場師として成功し、「商いで儲けさせてもらったのも人様のおかげ。大阪の街にみんなが楽しめる公共の場を作りたい」という思いで、私財を寄贈しました。公会堂建設中に、岩本は第一次世界大戦の影響で相場の深みにはまり、大損害を被ってしまいます。当時の市長が、寄付金の返還を申し出ましたが、岩本は頑なに固辞し、自ら命を絶ちました。享年39歳です。その岩本栄之助の遺品が、中央公会堂の地下1階に展示されています。日本銀行大阪支店を設計した辰野金吾が設計に関し相談を受け、懸賞設計方式を採用しました。地下1階、地上3階、2000名収容の大集会場、500名が一度に会食できるホールがあります。ここ何年間か改修工事をしていましたが、昨年秋に完成し、大阪を代表する建物として赤レンガの公会堂が甦りました。



大阪市中央公会堂

75 大阪通商会社 為替会社跡

北区西天満2-1(中央公会堂前)

- ▶ 碑文に『明治以後の大阪における産業経済発展に大きく貢献した会社、銀行の近代的経営に関する新知識は、明治二年この地に設けられた大阪通商会社と為替会社によって、初めて市民の間に扶植された』と記されています。大阪通商会社は、明治2年(1869)8月、太政官札の流通を早め、商業の振興を図るために設立された株式会社です。明治6年に設置される国立銀行までの架け橋として、経済界の近代化に大きな役割を果たしました。



76 越前福井藩蔵屋敷跡

北区中ノ島1-2(大阪府立中之島図書館)

- ▶ 福井藩は、徳川家康の次男 結城秀康が慶長6年(1600)に福井へ入国し、以来松平姓を名乗りました。幕末の福井藩は、天保9年(1838)、松平慶永(春嶽)が田安家から迎えられ第16代藩主に就きました。財政難に陥っていましたが、中根雪江、橋本左内、由利公正らの人材を得、熊本から儒者・横井小楠を顧問として招き、負債を抱える藩財政立直しに尽力しました。また、時勢を察し、兵制刷新、種痘館設立、藩校明道館創設、殖産興業策の振興を推進しました。幕末きっての名君であり、早くから「天下の四賢候」といわれました。明治新政府でも議定、民部卿、大蔵卿などを歴任しています。



大阪府立中之島図書館



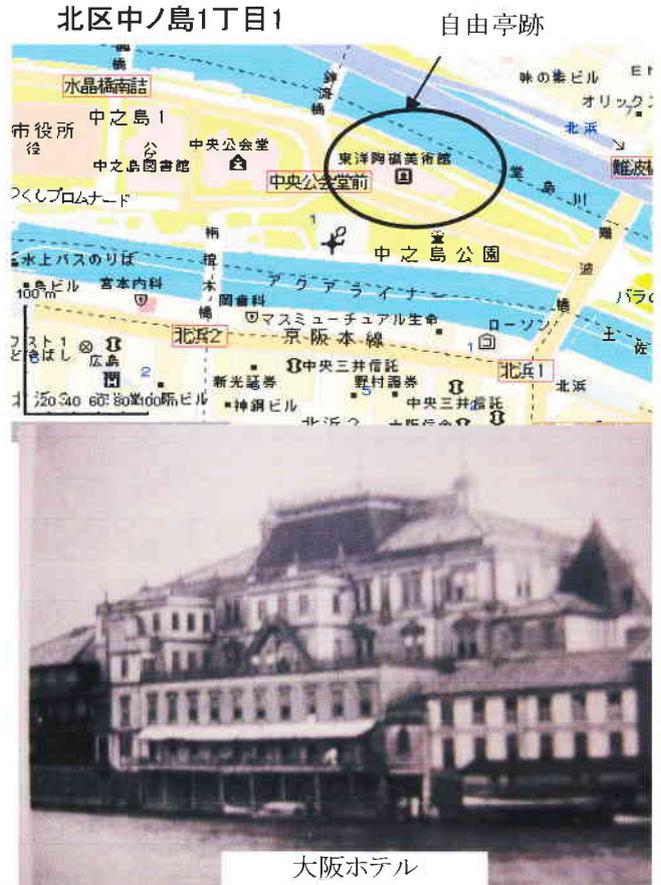
松平春嶽

77 自由亭跡

- ▶ 大阪で初の洋風料理店。開業は明治14年(1881)1月です。いずれ、自由亭ホテルへと発展します。明治14年10月、近畿自由党がここで会合を行い、板垣退助を政党本部長に、中島信行を日本立憲政友会新聞社長に決定しています。明治15年、東海地方遊説中の板垣退助が、岐阜中教院で刺客に襲われ負傷しましたが、その後、ここ自由亭にて静養しています。明治28年に「大阪ホテル」と改称します。



板垣退助



大阪ホテル

78

関一 像

北区中ノ島1丁目1(中央公会堂前)

- ▶ 20回忌にあたる昭和31年6月に、関一 遺徳顕彰委員会によって銅像が建立されました。関一は、第7代の大阪市長。第6代大阪市長だった池上四郎(会津藩出身)に引き抜かれ、大正3年(1914)7月、大阪市助役となりました。助役時代の大正7年より地下鉄の交通網の研究を始めます。大正12年市長となつてから、中津～我孫子間の地下鉄御堂筋線の建設案を提出。猛反対を受けますが、必要性を説き可決され、今日の交通網の礎を築くことになります。そのほか、都市計画、市民病院、市民館、社会事業、大阪商科大学の設立、中央卸売場、御堂筋の並木 等々、数多くの功績を残した市長でした。昭和10年1月に亡くなります。その7ヵ月後の8月に、孫にあたる淳一氏が誕生。この関一 淳一氏が、大阪市助役を経て、2003年12月、第17代大阪市長に就任したことは、既にご存知のことだと思います。関一 淳一氏は、大阪市立大学医学部を卒業した医学博士でもあります。



第7代大阪市長 関一 の銅像



初登庁する第17代大阪市長 関一 淳一氏

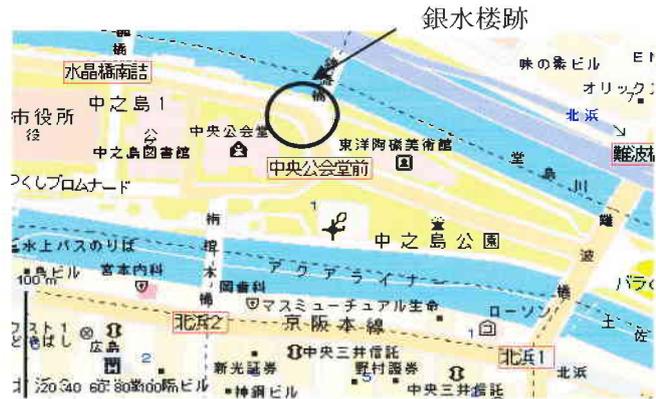
79 銀水楼跡

北区中ノ島1丁目1

- ▶ 銀水楼は、堂島川に面した料理旅館で、明治期にいろいろな人物が訪れています。大阪事件の景山英子が、明治17年10月にここを訪れています。明治36年(1906)11月、宮武外骨らが、ここで社会主義研究会の設立を協議しています。



<http://www> 宮武外骨



80

ほこながしばし

銚流橋

北区西天満(天満警察署前)

- ▶ 天満警察署前に大きな石鳥居があります。昔は天神祭り船渡御の一行が銚流橋から出発し、堂島川を下っていきました。この大きな石鳥居は、明治35年(1902)、天満宮一千年祭挙行の際、寄進の相談が有志でおこり、明治38年完成しています。ところが明治42年、北の大火で焼失してしまい、再度お金を募り、同43年11月再建されます。その名残を今でも見ることができます。

